

## ■情報項目

最初に調べられる情報は以下のとおり。

『フェイト』：ルミナ、ルミナを尾行する者

『カブト』：“フェイスレス” ミュリエル

『レッガー』：ジム・フロス

『イヌ』：身元不明の遺体

### ◆ルミナ・フロス

〈コネ：ルミナ〉〈社会：N◎VA、ストリート〉

- 10 アサクサの喫茶店に勤める女性。朗らかな愛嬌があるため、彼女目当てに店に来る客も。
- 13 ストーカー被害に悩まされているらしい。
- 15 喫茶店に勤務し始めたのは最近のようだ。
- 20 実は、過去の記憶が曖昧であるらしい。  
→【ルミナの過去】

### ◆ルミナを尾行するもの

〈知覚〉〈社会：ストリート〉

- 対決 カーライル・シンジケートの手のものだ。  
→【カーライル・シンジケート】

### ◆ルミナの過去

〈社会：N◎VA、ストリート〉〈コネ：ジム〉

- 15 ジムという名の父親がいるらしいが、連絡を取りあっている節はなく、ルミナも父親の事を知らないという。  
→【ジム・フロス】
- 17 アンモニア・アベニューの歓楽街でよく姿を見かけたという情報がある。しかし、本人にそんな場所に行った記憶はないようだ。→[ 歓楽街のアドレス ] を入手

### ◆“フェイスレス” ミュリエル

〈コネ：ミュリエル〉

〈社会：N◎VA、北米、ストリート〉

- 10 カーライル・シンジケートに所属する凄腕の暗殺者（カゲ◎）。変装を得意とし、特定の顔を持たないため、“フェイスレス” と呼ばれている。  
→【カーライル・シンジケート】
- 13 現在、行方不明である。どうやら組織から逃亡を図ったらしく、カーライルも彼女の足取りを追っているようだ。
- 15 『カブト』と合流する予定だった場所で、虚ろな目をして彷徨う女を目撃情報があつた。→【女を目撃情報】

### ◆女を目撃情報

〈社会：N◎VA、警察、ストリート〉

- 10 ホロを手に入れる。
- 13 その女性とは、喫茶店のバイト、ルミナ・フロスである。最近、『フェイト』とよく行動を共にしている。  
→【ルミナ・フロス】

### ◆ジム・フロス

〈コネ：ジム〉〈社会：N◎VA、ストリート、河渡連合〉

- 10 ストリートの放浪者。酒とドラッグに溺れており、いたる所に多額の借金がある。河渡以外にカーライル系列の会社からも金を借りていた。  
→【カーライル・シンジケート】
- 15 自分の一人娘すら娼婦<sup>マネキン</sup>として働かせ、金ヅルにするほどのクズだったらしい。娘の名前はルミナ。  
→【ルミナ・フロス】

### ◆身元不明の遺体

〈コネ：アリー塚原〉〈社会：ストリート、警察〉

- 10 木更津湖で発見された死体。強い酸のような薬品につけられていたかのように劣化が激しく、さらに DNA<sup>ディスラプター</sup> 攪乱剤が使用されており、個人の特定はほぼ不可能。辛うじて、女性であろうという事だけが分かった。
  - 13 墨田川下流の下水道を通して流れ着いたようだ。
- 〈社会：ストリート〉のみ
- 17 墨田川下流付近は、近年カーライル・シンジケートの勢力圏になっている。→【カーライル・シンジケート】

### ◆カーライル・シンジケート

〈社会：N◎VA、ストリート、警察、北米〉

- 10 N◎VAで急速にシマを伸ばしている北米マフィア。
- 13 <sup>カーゴ</sup>幹部の一人であるデガーマ・ベインティを中心として、戦力増強プロジェクトが動いているようだ。  
→【デガーマ・ベインティ】
- 15 最近、彼らのアジトの一つに、一人の女性の遺体が運び込まれたらしい。→[ アジトのアドレス ] を入手

## ◆デガーモ・ベインティ

〈社会：ストリート、北米〉

- 15 カーライル・シンジケートの人員養成担当者（クロマク◎）。古くから、同じ北米系の組織であるヒュプノスのタタラ、<sup>ビュグマリオン</sup>“偶像繰り” ローゼンタールと結託し、サイコ・アプリケーションを多用した効率的な兵士養成を行っている。→【“偶像繰り” ローゼンタール】
- 17 最近、「ムネモシュネ」というサイコ・アプリケーションを用いた兵力増強プロジェクトを行っていたが、テスト段階で欠陥が見つかったらしく、計画は頓挫している。  
→【ムネモシュネ】
- 19 子飼いの部下であった“フェイスレス” ミュリエルに逃亡された。現在、彼女の行方を追っている。→【ミュリエルの追加情報】

◆<sup>ビュグマリオン</sup>“偶像繰り” ローゼンタール

〈社会：北米、企業、ストリート〉

- 14 ヒュプノスの非合法工作部隊“タナトス”の一員（タタラ◎）。サイコ・アプリケーションの開発・運用に長ける。
- 16 人の精神を、まるで実験道具、あるいは玩具のようにしか思っていない狂人。精神を弄りまわして、人間を戦闘兵器に仕立て上げるやり口が有名。
- 17 ムネモシュネというサイコ・アプリケーションを開発したが、失敗作だったらしく、落胆しているとのこと。

## ◆ミュリエルの追加情報

〈コネ：ミュリエル〉

- 21 ミュリエルは、デガーモの手により暗殺者に仕立てられた孤児だ(\*)。過去の記憶の一切を“洗淨”され、暗殺者としての人格を刷りこまれた、自我なき殺し屋である。現在、彼女にはムネモシュネというサイコ・アプリケーションがインストールされている。

## ◆サイコアプリケーション「ムネモシュネ」

※デガーモの《不可触》で隠蔽されている。情報を知る人物に《真実》を使用する事で開示

神業 ローゼンタールが製作した、人間の記憶・人格・経験などを抽出し、それを他者に転写するサイコ・アプリケーション(\*)。デガーモはこれを用いて、手軽に戦闘のプロを量産しようと画策していた(\*)。

しかしテスト段階で欠陥が発覚。記憶を抽出された被験者が精神崩壊を起こして死亡してしまい、さらに得られた人格データは欠損だらけの未完成のものだった。これをインストールされると、記憶喪失のような状態になってしまう。

→[実験施設のアドレス]を入手

## デガーモの手により……

もしプレイヤーの多くがシナリオ『Nothing hurts like the truth』（『TND』付属）をプレイしているのであれば、以下の情報を追加してもよい。

デガーモ・ベインティはコクーン養成所壊滅後に、サミュエル・エルロイの後釜としてN◎VAに派遣されたカーポである。

ミュリエルはコクーン養成所出身の殺し屋であり、その後デガーモに拾われて今の状態になった。

## ムネモシュネ

技術的には、「ゴーストダビングシステム（『MDI』p38）」をより簡易にしたようなものになる。しかし、軌道の技術を持ってしてもゴーストダビングは相応のリスクを伴うものである。

## 戦闘のプロを量産

無限にコピーされたキース・シュナイダーやモードレッドを想像して頂きたい。